

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松友会	代表者	理事長 上田 慎子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・法人グループ内で、グループホーム、特別養護老人ホーム等入所系施設があり、また居宅介護支援事業所、デイ、ショート等居宅系事業所もあり、総合的・継続的なサービスが提供できます。 ・事業所名である「オハナ」にはハワイ語で家族という意味があります。お互いに助け合うことをいとわない親しい友人や仲間のこともオハナと呼ぶことがあります。そうした関係性を大事にし、顔なじみのスタッフがご利用者個々のニーズに沿って柔軟な対応を行い、ご自宅、地域での生活をご支援します。また食事は施設内厨房で手作りし、季節にあった料理を提供しています。
事業所名	ピースフルライフ オハナ	管理者	伊藤 陽子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人(兼)	2人	0人	1人	1人	1人(兼)	3人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、看護、調理、ケアマネそれぞれの職域、仕事内容を理解しあい、相互の専門性を活かしたケアを行う。 ・専門性の高い言葉についても、お互いに聞きながら、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ会議を中心に改善計画に基づいて、話し合いをすることができた。 ・評価をする時に、自身の評価と勘違いするスタッフがいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変則勤務で全員が集まることは難しいと思いますが、スタッフの皆さんできちんと話し合いできていのだと思います。 ・達成可能な計画になっていると思う。良くなっていくことを期待しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所自己評価の改善計画を事業計画に組み入れ、確実に実施していく。 ・事業所評価の在り方をスタッフ間で周知し、言葉の意味を理解したうえで評価する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の整理整頓、過ごしやすい環境を作るよう、引き続き明るい雰囲気を保てるように努める。 ・事業所周辺は狭い道路なので、運転に注意し、事故0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通違反は数回あったが、交通事故に関しては一度も起こさずに過ごせた。 ・誰でも入りやすい開放感があることと、不審者は入ってこないよう防犯の意識、両方を考えていかななくてはならないため、オートロックを使用。暗証番号を定期的に変更してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入った時には、明るいなど感じる雰囲気である。 ・交通ルールを守り、安全に務めていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気を作り、過ごしやすい環境に努める。 ・誰でも入りやすい開放感と、防犯意識双方の意識を持つ。 ・運転に注意し、事故0、違反0を目指す。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・懇切丁寧な対応を行い、相手に感謝の気持ちを伝え、挨拶を重んじて、良い関係作りに努める。 ・地域の行事に参加する。 ・オハナのイベントへ地域の方に参加していただけるよう情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎等に行った時にはその方の近所の方にも挨拶を行い、問題なく送迎を実施することができている。 ・イベント情報を発信することはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ地域ではオハナを知られていないと感じるが、実際には地区住民には「オハナ」がどこにあるか知っている人が増えている。どんな内容で事業をしているか知らない人は多い。地区が広いので、まったく知らない人もいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の場として「そうだ！オハナへ行こう」週間を設ける。(11月を予定) オハナを開放し、もっとオハナを知っていただく。 ・板戸地区に回覧板を回していただき、周知する。ご利用者ご家族にも周知する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の送迎、訪問中など周囲に対しても目配りをしていく。 ・送迎時やドライブ時など、地域に関わる話を折り込み、その地域のゆかりある会話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎中に介護予防をしたいと相談してくれた方がいて、地域包括支援センターを紹介したケースがあった。 ・近所の方でお友達が来ているということで、見学に来てくれた方がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの生活圏域を超えて事業所を利用しており、市全域が地域と捉えていることが現状。 ・自宅近所の小規模多機能を利用できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏域の方が利用に結び付けるように努める。 ・日頃の送迎、訪問中など周囲に対しても目配りをしていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で共有した地域のニーズに対し、事業所で解決できるケースは懇切丁寧に対応していく。解決できない時には、関連機関との連携を図り、解決に向けた行動をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の中では、利用者さん以外の地域の方の事例や相談ケースは上がらなかった。 ・地域ケア会議などでは事例検討はされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に見て地域性によって、役割に大きな差があると思う。また立地によってもその役割は異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で共有した地域のニーズに対し、事業所で解決できるケースは懇切丁寧に対応していく。解決できない時には、関連機関との連携を図り、解決に向けた行動をとる。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、事業所共に防災計画を確認し、災害時のことを想定しておく。 ・伊勢原市との災害時における福祉避難所としての協定に基づき、支援を求めて来た人に、安心して過ごしていただけるように心づもりをしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地区の防災訓練への参加をしてもらったらいいと思う。 ・事業所内で年2回の防災避難訓練を実施した。 ・福祉避難所としてのマニュアルが整備されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常事態では、移動できる場所に避難をせざるを得ない、高齢者の状態によっては、広域避難所の生活にそぐわないこともある。 ・利用者の状況に応じて、この人は普段の事業所がいいのか、広域避難所がいいのかマニュアル化が必要。 ・家の母は避難所の生活は無理なのだと考えた。オハナで見てもらえたら、どれだけ助かるだろうかと考えながら回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、事業所共に防災計画を確認し、災害時のことを想定しておく。 ・伊勢原市との災害時における福祉避難所としての協定に基づき、支援を求めて来た人、オハナを利用して頂いてる方に、安心して過ごしていただけるように心づもりをしておく。

